

科学館における芸術的視点

永原達哉 *

概要

大阪市立科学館では、年間多数の科学イベントを行う。また科学館オリジナルのグッズなどの製作も行っている。個々の科学イベントの内容を効果的に、かつインパクトのある広告物を作るかは、芸術的視点が求められる。また館内のサインを来館者にわかりやすく掲示したり、展示物に視覚的な楽しさを加えることについても、同じである。ここでは、それらを例に挙げながら科学館における芸術的視点で行った業務について報告する。

1. はじめに

科学館で実施する数々のイベント、科学館を利用する来場者のための案内サイン、科学館の展示場にある展示物のデザイン、そしてショップで販売するオリジナルショップのデザインなどを担当した。各担当者との話し合いを通して、担当者の意向をデザイン化する作業をカテゴリー別に紹介する。

2. チラシ・ポスター

2-1. イベント

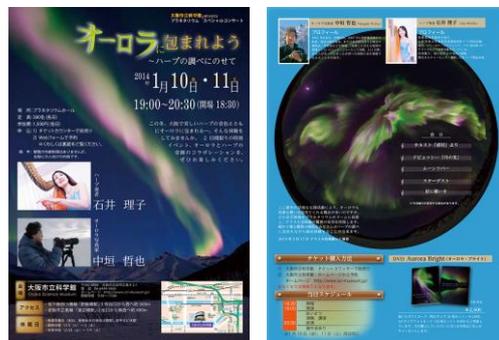
今ではホームページでの広報活動が主流になっているが、電車の中刷りや施設に配布しているように、紙媒体の効果はまだ高い。意図的に探している場合、もしくは偶然見つけた場合など、手に取るケースは様々だが、“目にとまる”ことが一番大切である。担当者とは主旨を確認しながらデザインした。

【ファミリータイム】



小さな子ども連れの家族を対象としたプラネタリウムである。プログラムの内容が分かりやすく、小さな子どもが見たくなるようなイラストを描いた。(サイズ:A4、紙種:マットコート90kg)

【オーロラに包まれよう～ハープの調べにのせて～】



プラネタリウム・スペシャルコンサートのチラシである。担当者の西野学芸員と相談しながら作成した。出演者が撮影した素晴らしい写真を生かしたデザインにした。(サイズ:A4、紙種:マットコート90kg)



*企画広報グループ企画チーム
nagahara@sci-museum.jp

【大阪市文化連携事業・科術プロジェクト2014
「2月は科学館 de おりがみと香りのワークショップ」】



これは、当日来場者に配布したパンフレットである。表面はチラシのイメージを踏襲した。“地球規模の出会い”を表現したかったので、世界地図を全面に配置し、アラスカで撮影したオーロラと中東で生まれ、ヨーロッパを経て日本にやってきたハーブが、大阪市立科学館で出会った、という意味合いでデザインした。(サイズ:A5・A4二つ折、紙種:マットコート90kg)

【企画展 色の彩えんす】



広報チームと担当の長谷川学芸員と相談しながら作成した。展示品の写真と解説を効果的に配置し、展示会の主旨を分かりやすく伝えるデザインにした。(サイズ:A4、紙種:マットコート90kg)

【企画展 都会の星写真展—東山正宣作品展—】



担当の嘉数学芸員と相談しながら作成した。幻想的な星の写真の中心に情報を集めた。星の中央にカシオペア座をレイアウトした。(サイズ:800×900mm)



上写真は案内チラシの表面である。イベント内容のひとつである“折り紙で花を作り、それに香りを付けて、最後にダンボールで作った枯れ木に付けて満開にさせる。”という企画をイラストで表現した。



イベント紹介の情報量が多かったのでコーナー毎のレイアウトや、文字の扱いに気を配ってデザインを行った(サイズ:A4・A3二つ折、紙種:マットコート90kg)
※このイベントの詳細は本誌に別途報告している。



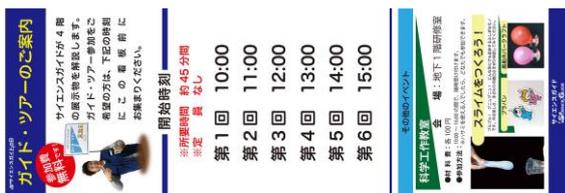
これは、自由参加型ワークショップの案内ポスターである。(サイズ:800×900mm)

【サイエンスガイドの日】



当日マップ

これは、国際ボランティアデーを記念して、大阪市立科学館ボランティア「サイエンスガイド」が中心に行ったイベントのチラシである。担当の嘉数学芸員、そしてサイエンスガイドのリーダーと相談しながら作成した。前年度の反省点として、参加者に対して、展示場内、展示場案内や、演示実験を行う場所が分かりづらかったという指摘を受けたので、展示場の案内に注視した当日用のチラシも作成した。(サイズ:A4、紙種:マットコート90kg 2種類とも同じ)



これは、展示場4階で実施された「ガイド・ツアー」の案内看板である。



英語の案内チラシ

サイエンスガイドの中には、英語が堪能な方もいるので、英語での案内ポスターも作成した。

【科学実験大会2014】



当日プログラム

時間	会場名	内容
10:30~10:45	1階ロビー	開会式
10:45~11:00	1階ロビー	サイエンスショー
11:00~11:15	1階ロビー	サイエンスショー
11:15~11:30	1階ロビー	サイエンスショー
11:30~11:45	1階ロビー	サイエンスショー
11:45~12:00	1階ロビー	サイエンスショー
12:00~12:15	1階ロビー	サイエンスショー
12:15~12:30	1階ロビー	サイエンスショー
12:30~12:45	1階ロビー	サイエンスショー
12:45~13:00	1階ロビー	サイエンスショー
13:00~13:15	1階ロビー	サイエンスショー
13:15~13:30	1階ロビー	サイエンスショー
13:30~13:45	1階ロビー	サイエンスショー
13:45~14:00	1階ロビー	サイエンスショー
14:00~14:15	1階ロビー	サイエンスショー
14:15~14:30	1階ロビー	サイエンスショー
14:30~14:45	1階ロビー	サイエンスショー
14:45~15:00	1階ロビー	サイエンスショー
15:00~15:15	1階ロビー	サイエンスショー
15:15~15:30	1階ロビー	サイエンスショー
15:30~15:45	1階ロビー	サイエンスショー
15:45~16:00	1階ロビー	サイエンスショー

担当者の小野学芸員と相談しながら作成した。裏面プログラムのとおり、たくさんの主演者がいたので、表面はサイエンスショー・コーナーにある独特の雰囲気壊さず、かつたくさんの出演者が大会を盛り上げている雰囲気を表現した。(サイズ:A4、紙種:マットコート90kg)

【We are, 科学デモンストレーターズ】

“科学デモンストレーター”とは、サイエンスショー・コーナーで科学実験を演示するボランティアスタッフのことである。これはイベント当日デモンストレーターだけでサイエンスショーを行う内容だった。担当の小野学芸員と科学デモンストレーターの世話人数名に相談しながら作成した。



表紙

裏紙



↓地

イベントにストーリー性を持たせることにした。科学デモンストレーターがコーナーを占拠するいきさつをコミカルに仕立てた。デザイン的には映画のチラシなどに

見る感じを意識した。



上図は、当日用看板である。コーナーを占拠するという事なので、担当学芸員全員を縄でしばったシーンを撮影した。笑って協力してくれた学芸員に感銘を受けた。

【スペシャルイベント「電気と磁石のふしぎなカンケイ!？」】



電気記念日に連動したイベントである。よってすべてが電気に関係した内容である。表面のメイン画像は共催者である一般社団法人日本電気協会から提供されたものである。(サイズ:A4、紙種:マットコート90kg)

2-2. 募集告知

【平成26年度 第8次サイエンスガイド募集】



科学館ボランティア「サイエンスガイド」の募集チラシである。担当の嘉数学芸員、サイエンスガイドリーダーと相談して作成した。

中面↑天



↓地

サイエンスガイドの基本色である青をベースにデザインした。表面にレイアウトした写真以外に色を塗った四角が3つあるが、新しく入るサイエンスガイドにこれらの枠を飾ってもらう活動を期待しているという意味合いで作成した。

2-3. プラネタリウム

【オリオン座の赤い星】



担当の西野学芸員と相談して作成した。オリオン座にあるベテルギウスという星が消滅する、という内容である。ベテルギウスの画像のインパクトが大きいので、それに負けない、ドラマチックなデザインにした。

【南十字星にあいにいこう】



担当の飯山学芸員と相談して作成した。南半球に行かないと見られない「南十字星」。男女ふたりが海辺で夕陽を見ながら、南十字星を想っている感じでデザインした。

【天の川ってなんだろう】



担当の嘉数学芸員と相談して作成した。これはメインの画像を加工する必要がなかった。天の川を際立たせる処理を行った程度である。“天空に輝く星の川”をイメージしてタイトルをデザインした。

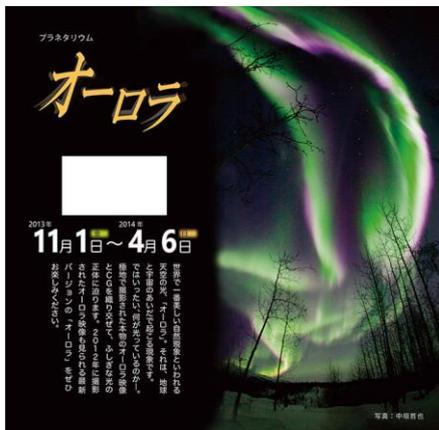
2-4. アトリウム看板

【ブラックホール】



担当である石坂学芸員と相談して作成した。メインの画像が円形で、縁が黒色だったので、四面に処理をしている。また画像内にある黒いブラックホールに説明文が吸い込まれるようなイメージでデザインした。

【オーロラ】



担当の西野学芸員と相談して作成した。この看板は中央部でプリントがふたつに分かれる。そのまま右のオーロラの画像を配置すると、左の黒い部分と寸断される。そこで、オーロラの光を黒い部分にまたぐように画像処理をした。

3. 展示場関係

2階「いろいろなかがみ」

担当の江越学芸員と相談して作成した。この展示物は、いろいろな種類の鏡を紹介している。鏡ですぐに思いついたのは、“鏡の国のアリス”だった。鏡の国に迷い込んだアリスとその仲間たち、という設定でデザインした。



デザイン前



デザイン後

4. 案内サイン

サイン委員会の作業として行った。下図のサインだと背面が複雑の色合いなので、文字がわかりづらい。しかも車椅子だけのピクトグラムが配置している。“誰でも利用できる入口”という意味合いで、サインを作った。



作業前



作業後

4-2. ロッカーのサイン

サイン委員会の業務として行った。案内員よりキャリア・バッグをチケットカウンターに預ける来場者が多い、ということを知っていた。そこでキャリア・バッグが丸ごと入るロッカーを導入することにした。ロッカーにつけたサインは、小物を入れるのではなく、キャリア・バッグ用のロッカーであることを示すものである。キャリア・バッグの種類を調べると、34cmまでのものが大半であったので、幅の寸法を明示した。



外国人に分かりやすいサインにした。



アトリウムにあるロッカーに加わった
キャリア・バッグ用ロッカー

5. その他

5-1. ジュニア科学クラブの缶バッジ

担当の西野学芸員と相談して作成した。毎年募集するジュニア科学クラブのメンバーに配布する缶バッジである。中心の電球の絵はクラブのマークである。外円部分の淡い紫はアメリカ広告大手のパントンが発表するその年の色を採用した。2014年の色は「ラディアン

ト・オオキッド(C-19, M-70, Y-0, K-0)」。輝く
蘭という意味である。



入稿用データ



完成図

5-2. ミニブック「静電気博士になろう～なにわの静電気博士・橋本宗吉にチャレンジ！」



担当の嘉数学芸員と相談して作成した。これは科学館のミュージアムショップで販売されているものである。嘉数学芸員から預かった写真(下)の男性が静電気の実験をしているのだが、表情に“ビリッ”と通電している感じがなかった。そこで、エレキテルの画像を加えて1枚のイラストを描いた。



6. サイズと紙種について

チラシの基本サイズはA4である。それは、施設の多くが設置しているラックがA4仕様になっているからである。よってA4より大きいサイズや、小さいサイズだと、設置するために施設側にひと手間をかけてしまう。場合によっては、設置してもらえないこともある。

科学館で製作するほぼすべてのチラシの紙種は「マットコート紙(半光沢)」にしている。「コート紙(光沢)」だと、指紋がつきやすい。一度手に取って、再びラックに戻した場合、指紋が目立つ場合がある。また「マット紙(艶消し)」だと、指紋はつかないが、色が映えない。

印刷業界において、紙は“連量”と呼ばれる重量が、厚みの単位になることが多い。一定の寸法(印刷業界では、通常四分六判(788×1,091mm)が原紙として扱われることが多い。)で仕上げられた1,000枚の重さを一連と呼ばれる。マットコート紙90kgとは、原紙1,000枚の重さが90kgあるマットコート紙という意味である。実際の厚みは約1.3mmである。90kgの下は70kgだが、薄く感じるので安い印象が残る。上は110kgだが、厚すぎて仰々しい印象が残る。ちょうど良い質感が90kgなのである。ただしポスターについては、壁面に掲出するため、耐久性を考慮してマットコート紙160kgを使っている。

7. 最後に

企業などは、業績不振から経費削減を強いられている。去年あたりから景気は上向き加減といわれているが、大企業がようやく設備投資や賃金アップを進め始めたぐらいである。多くの中小企業はまだ厳しい運営を強いられている。企業などによって先ず削減されるものは、広告宣伝費といわれている。ホームページ製作も過当競争に入り、製作費が安くなった。しかも利用者が持つネット環境の多角化で、広告媒体のホームページ依存が加速している。かといってチラシやポスターなどの紙媒体がまったく不要かという、そうでもない。

“デジタルサイネージ”と呼ばれるデジタル広告はまだ高額で、施設のあちらこちらに設置することは難しい。電車の中吊りを全部デジタル化しようとする天文学的な費用がかかるだろう。また映画館や当方などの博物館美術館などの施設利用者にとって、紙媒体であるチラシは、単なる情報発信のツールだけでなく、想い出のひとつとして扱われることもある。

科学館でデザインをする者として、各担当者が伝えたい真意をしっかりと理解して表現することはもちろんであるが、その真意をできるだけ多くの人たちに届くように、デザインを考えていきたいと思っている。

